教育総合センター
だより

ＮＯ．１６７
令和　５．３．１

「　矜　持（きょうじ）」

学校教育課
課　長　　澤田　慶太

年末の大掃除

ふとしたところから１枚の学級通信が出てきた。採用試験になかなか受からず、30 歳を迎える年になんとか滑り込み、ようやく手に入れた「学級担任」の座。4 月、入学式後に教室に入り、子どもや保護者の前に立った時の、緊張感をはるかにこえるわくわく感は今でも忘れない。

やさしく、思いやりのある、あったかい雰囲気の教室にしたい・・・教室の掲示物は、とにかく「手書き」にこだわった。学級通信のタイトルは「こころ」。もちろん手書きである。うれしかった…ありがとう…時には「何やっとんじゃ！」想いのままを自分の書いた文字で伝えたかった。時代は、通知表を PC で作成するところにきた。抵抗した。数字や〇、abc のゴム印を押し、所見は当然のように自分の書いた文字で伝えた。

それから 17 年が過ぎ、教頭として赴任し 600 人を超える子どもと 50 人近くの大人の担任となった。時代は働き方改革。私が抵抗したのは、メールでの欠席連絡である。

私も親となり、子どもが病気になった時の心配感。登校を渋った時の困惑感。その中でも仕事や家のことをする大変さ。「〇年〇組　△△休みます」そうやって連絡をくれる保護者に対して「わかりました」だけでなく「お父さん仕事ある中連絡ありがとう」「お母さん心配だけど一緒に頑張りましょう」何か一言声をかけたくて、保護者の方にも負担をかけてしまうのだが、欠席連絡は電話連絡をお願いした。

朝の１時間、めまぐるしく何十本もの電話がかかるが、保護者や家庭と学校が、あったかくつながることのできる大切な時間であったように思う。

今は教育行政の中に身を置き、学校教育課が所管する小・中・特別支援学校 60 校の担任を拝命した。

改めて感じることは、学校は、人が人として磨かれたり成長したりする場所であるということ。そこに通う子どもたちはもちろんのこと、学校に関係する大人もである。

尼崎の子どもたちが、未来を生き抜く力をつけるため、学力向上や心の教育、道徳心や人権意識の醸成など、教育課題は山積している。

時代の急速な変化に加えて、目まぐるしく変化する教育環境の中にありながら、学校は校長先生のリーダーシップのもと、教職員の皆さまのたゆまない努力、そして保護者や地域の皆さまの理解・支援をいただきながら、子どもの成長を一番に、魅力ある懸命の教育活動を展開していただいている。

ICT の進展は、学校の業務改善に大いに役立つだけではなく、子どもたちの学びに広く深くかかわっている。歓迎する一方で学校が機械（的）に支配されることなく、多少泥臭くても、手間をかけることを忘れてはならないと強く思う。人が互いを大切に思いやり、保護者や地域、関係機関、教育行政が温かい関係を築くことが、子どもたちの未来がいっぱい詰まった、人は人として育つ学校にはいつの時代も必要ではないか。

今の担任の立場は、大きな舵を取ることも必要だ。その中でも些細なことを大事にしよう。PC で作成した整った文書に、手書きの付箋一枚つける気持ちを持っていたい。50 歳を目前に、きれいな字を書きたくて練習帳を購入し、ひらがな・カタカナから練習している。

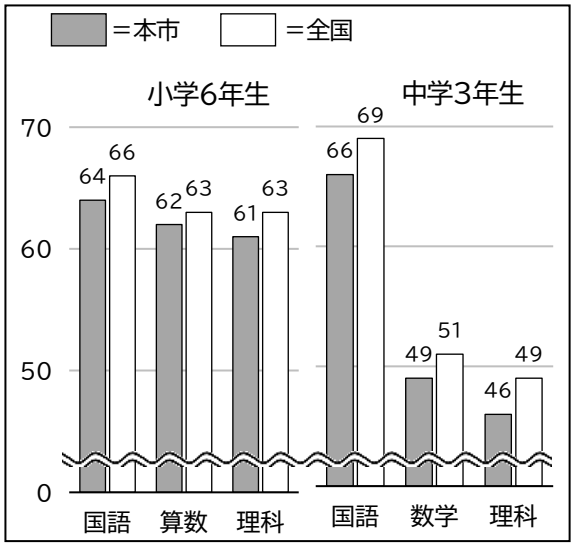
☆☆令和４年度　全国学力・学習状況調査の結果の概要について☆☆

昨年４月１９日に実施された全国学力・学習状況調査の結果の概要をお知らせします。同調査は、子どもの学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の改善や学校での教育指導の充実を図ることなどを目的としています。

今年度は、小学校算数で初めて、プログラミングを題材にした問題が出題されたり、理科では予想していなかった結果に対して実験の計画を再検討し、改善点を考えたりする問題が出題されました。

学力調査の結果

今年度は国語と算数・数学、理科の３教科で実施されました。本市の小学６年生・中学３年生の学力調査の結果、全国と比較するとやや低いものの、ほぼ全国レベルという結果になりました。



学習・生活習慣調査の結果

◇生活習慣

普段、テレビゲーム（パソコン・タブレット・スマートフォンを使ったゲームを含む）を２時間以上している児童生徒の割合は本市も全国も５０％を超えています。

◇規範意識

「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた児童生徒の割合は９０％を超えています。

◇ICT の活用

週３回以上、授業でパソコン・タブレットなどの ICT 機器を使用した児童生徒の割合は全国と比較すると高い傾向にあります。また「学習の中でパソコン・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立っている」と答えた児童生徒の割合は９０％を超えています。

◇社会との関わり

「今住んでいる地域の行事に参加している」と答えた児童生徒の割合は全国と比較すると低い傾向にあります。

深い学びは学力向上につながる

１２月に実施した「エビデンスに基づく教育実践研究部会」では、早稲田大学 教授 田中博之氏をお招きし「学力向上の成果を上げている学校の特徴」についてご講話いただきました。

全国学力・学習状況調査の結果チャートを活用して、学校運営に活かしたり、児童生徒の学びの様子を分析したりする方法や、学力向上の成果を上げている学校の実践などを紹介していただきました。

また、「主体的・対話的で深い学び」は学力向上につながるとし、深い学びにつながるポイントを９つ提示されました。

- 文章と式や図を組み合わせて論理的に説明する。
- 複数の資料を関連付けたり比較したりして、結論を書く。
- 基礎的な知識、技能を活用して問題解決の過程と結果を書く。
- 資料を読み取って、自分の言葉でキーワードを引用して表現する。
- 思考モデル、判断モデル、表現モデルを活用して表現する。
- 資料を引用しながら理由や根拠を示す。
- 原因や因果関係、関連性を探り考察結果を書く。
- 学んだことを生かして、次の新しい課題を作る。
- 既製の資料や作品を批判的に吟味検討する。

全国学力・学習調査の問題には、問題ごとに学習指導の改善や充実に向けたメッセージが含まれています。結果だけでなく、問題や解説資料、結果報告等をご覧いただき、児童生徒の学力向上や、先生方の授業改善にぜひ繋げてください。

（学び支援課　指導主事　水本美穂）

☆☆「校則の見直しに関するガイドライン」のポイント☆☆

1　ガイドライン策定の趣旨

平成22年に文部科学省から出された「生徒指導提要」が令和4年12月に12年ぶりに改訂されました。子供たちを取り巻く環境の変化や多様化･複雑化する生徒指導課題に柔軟に対応するようにまとめられています。その一部に「校則の運用・見直し」について明記されており、そのことを受けて尼崎市教育委員会として「校則の見直しに関するガイドライン」を策定しました。尼崎市のHPにも掲載をしています。

2　校則の見直しの３つのポイント

① 児童生徒等が、校則の見直し過程に参画できるような仕組みを構築する

また、PTA や学校運営協議会等から意見を聴取する。

② 必要かつ合理的な範囲内で学校や地域の実情に合わせて制定する

校則を「必要かつ合理的な範囲内」で制定するという視点から、以下の内容に留意する。

(1)　生まれ持った性質や性の多様性を尊重していない内容

（例）地毛の色について学校の承認を求めるもの

（例）髪型や制服に男女の区別を設け、選択の余地がないもの

(2)　健康上の配慮がない内容

（例）水分摂取の禁止や防寒着の禁止など、体調維持に問題が生じるもの

（例）給食は決められた時間内に残さず食べるなど健康被害につながるもの

(3)その他合理的な理由を説明できない内容

（例）肌着、靴下の色等を過剰に限定するもの

これ以外にも説明が難しいと思われる内容については積極的に見直しを行うこととする。

③ 校則（学校の決まり等）を公表する

学校の校則（学校の決まり等）を広く周知し、児童生徒・保護者・地域から理解と協力を得るため、各学校のホームページに掲載する。また、今回の校則見直しを契機として、校則（学校の決まり等）の標記方法についても、児童生徒・保護者に分かりやすく、説明できるように整備する。

3　終わりに

学校は、以前から毎年、校則（学校のルールや決まり）の見直しに取り組んでいます。今回の「ガイドライン」の趣旨に基づいて、今まで以上に、児童生徒や保護者、地域の意見を聞きながら、最終的には学校長が適切に判断をして、校則の見直しを進めていただけたらと思います。

そして、子供たちが主体的に学校生活に参加し、少数派の意見に耳を傾けたり、自分の意見にも価値があると思える経験をしていく事等を通して、自分自身や自分の通う学校に自信や誇りをもってくれることを願っています。

（いじめ防止生徒指導担当課長　石本将史）

教育情報コーナーのお知らせ

☆教育情報コーナーのご案内

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。また、必要な図書、資料等のご相談にも応じております。お気軽にお尋ね下さい。

（３Ｆ　教育情報コーナー）

【新着図書】

・『私だけ年を取っているみたいだ。ヤングケアラーの再生日記』　水谷　緑　著／文藝春秋
・『外国人と共生するための実践ガイドブック　ＳＤＧｓ多文化共生へのエビデンス』
友原　章典　著／日本評論社
・『外国人の子ども白書　権利・貧困・教育・文化・国籍と共生の視点から』
荒牧　重人　他著／明石書店
・『ペアレントクラシー　「親格差時代」の衝撃』　志水　宏吉　著／朝日新聞出版
・『学校と教育委員会・自治体をつなぐ教育ＤＸ推進ガイド』
山本　朋弘　編著／明治図書
・『授業が変わる学習評価深化論』　石井　英真　著／図書文化社
・『最新教育動向２０２３』　「教育の未来を研究する会」著／明治図書
・『ＩＣＴ×インクルーシブ教育　誰一人取り残さない学びへの挑戦』
鈴木　秀樹　著／明治図書

（担当　松浦）

☆「ひと咲きタワー」は、学びのタワー！

【本の紹介】

■『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー２』（新潮社　2021年9月初版発行）

著者　ブレイディみかこ：ライター・コラムニスト。1996年から英国ブライトン在住。2017年、『子どもたちの階級闘争ーブロークンブリテンの無料託児所から』（みすず書房）で新潮ドキュメント賞を受賞。2019年、『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』（新潮社）で毎日出版文化賞等を受賞。

他に著書多数

2019年に発行された話題作『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』の第2弾。今回も英国の公立中学校に通う13歳の「ぼく」とその母親である筆者たちの日常生活を通して、貧困、格差、ジェンダー等、この国が抱える様々な問題を取り上げている。「ぼく」の純粋な視点が新鮮で、日本の教育との違いや共通点を考えながら読める本である。

■『最新教育動向２０２３』（明治図書出版　2022年12月初版発行）「教育の未来を研究する会」著

最新の教育動向を、「個別学習・協働的な学び」「教育課程」「政策」「学習」「学校」「教師」「子ども」「社会問題」「多様性」「ＹＵＣＡ時代」のカテゴリーに分けてわかりやすく説明している。

その中で、例えば「ＣＢＴによる全国学力・学習状況調査実施に向けた検証と課題」「生徒指導提要の改訂」「部活動の地域移行計画推進」「ＳＴＥＡＭ教育のさらなる広がり」「これからのコミュニティ・スクールの在り方と取組」「不登校特例校の設置状況と課題」「公務員の定年延長と教師のウエルビーイング」といった今日的課題についても取り上げており、最新の教育について学べる一冊である。

（担当　西川）

※教育総合センターには、すてきな本がたくさんあります。